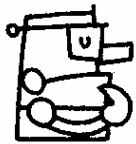


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

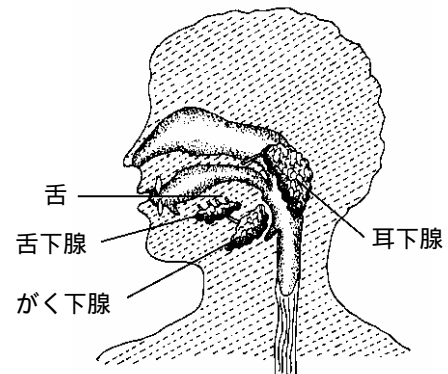
だ液は、どこから出てくるの



だ液が出るのは、口の中の耳の下、うわあご、舌の下の3か所のほか、ほっぺたの内側からも出ているのさ。

だ液は、昼間もねているときも、いつも少しずつ出ています。食べ物が口に入ると、消化を助けるために、どんどんだ液が出てきます。1日に出るだ液の量は、大人で1～1.5リットル、赤ちゃんは、その9倍ぐらいも出ています。

だ液がおもに出るのは、右図のような3つのだ液腺（えきせん舌下腺、ぜっかせんがく下腺、かせん耳下腺、しかせん）からです。このほかにも、ほっぺたの内側にも小さなだ液腺がたくさんあって、ここからも出ています。



<だ液の出るところ>

だ液のおもなはたらきは、消化を助ける、病気の菌を殺す

だ液のはたらきを、実験で調べてみましょう。うすいデンプンのりの液を試験管2本に入れ、片方にだけだ液を入れて人間の体温ぐらいの温度の湯に10分ほどつけておきます。これに、ヨウ素液を入れると、だ液を入れたほうは色が変わりません。だ液を入れなかったほうの試験管は、ヨウ素液で青く色が変わります。だ液がデンプンを別の物（ブドウ糖とう）に変えて、体に吸収きゅうしゅうしやすくするのです。

だ液には、細菌さいきんを殺すはたらきもあるほか、食べ物を飲みこみやすくしたり、舌やくちびるがなめらかに動くようにしたり、食べ物の成分をとかして、舌で味がわかるようにしたりするはたらきがあるのです。